



ニュースレター

SDM NEWS

4月11日～13日入学合宿：合宿中に行われたグループワークの様子

2014年 月号

5

行事予定

2014年6月2日(月)

第1期入試出願開始

<http://www.sdm.keio.ac.jp/admission/>

2014年6月15日(日)

ワークショップ『学生によるSDM
ワークショップ体験(「見た・聞いた」
だけじゃ分からない、SDMのワークショッ
プを体験してみよう!』

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/05/27-123245.html>

要事前登録

2014年6月20日(金)

慶應SDM公開講座 出井 伸之氏
(クオオナムグループ(株) 代表取締役・元ソ
ニー(株) 会長)「イノベーションの俯瞰図」

終了後、研究科説明会

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/05/22-085136.html>

要事前登録

2014年7月4日(金)

慶應SDM公開講座 内山田 竹志氏
(トヨタ自動車株式会社代表取締役会長)
「プリウスの開発とサステナブルモビ
リティ実現に向けたトヨタの取り組み」

終了後、研究科説明会

@日吉キャンパス

<http://www.sdm.keio.ac.jp/2014/05/24-175525.html>

要事前登録

慶應義塾大学イベントカレンダーもご利用ください。

http://www.keio.ac.jp/ja/event/201405/201405_index.html

通算66号 2014年5月発行

SDM
System Design and Management

<http://www.sdm.keio.ac.jp/>



専任教員からのメッセージ

慶應SDMからTokyo 2020へ

2013年9月、ブエノスアイレスで開催された第123次IOC総会で2020年オリンピック・パラリンピックの東京開催が決定しました。夏季オリンピックとしては56年ぶり、オリンピックとしては長野オリンピック以来22年ぶりの日本でのオリンピック開催です。SDM研究科の特徴のひとつは教員のみならず、学生の多くも産業界との連携が活発であること、また、実際に産業界に籍をおいて実務をこなしているという点ですが、このオリンピック・パラリンピックの誘致にあたってはSDM研究科の教員や学生が様々な形で参加し、ブエノスアイレスにて東京開催が決定した当日には、現地から笑顔に溢れた教員と学生の写真が関係者に配信され、その喜びを共有しました。被災地復興、少子高齢化、景気回復など様々な課題を抱える日本において、次世代を担う子供を含め国民が未来に希望を持つことができ、また、様々な形で日本が世界各国から注目される祭典が2020年に東京で開催されることは、少なからず日本が元気になるきっかけを生むことになると思います。SDM研究所では、およそ1年の準備期間を経て、スポーツにおける効果的な競技技術の向上・人材育成、非スポーツ分野との多様な連携によるスポーツの価値向上・普及拡大を目的としてスポーツデザイン・マネジメントラボを2013年に設立しました。また、今年、2014年は、SDM研究科が設立されてから6年、オリンピック・パラリンピックの東京開催まで6年です。オリンピック・パラリンピックの東京開催での成功、また、それを飛躍のタイミングと捉えた2020年以降の日本や世界の社会課題解決のためにSDM研究科が果たすべき役割は大きく、学生、研究員、教職員が一丸となって様々なことに取り組むことで少なからず価値のある社会貢献ができると考えています。そのためには、システムズ・アプローチをベースに研究と教育を行うSDM研究科から国際的なリーダーを数多く輩出できるよう様々な挑戦を行って参ります。

SDM研究科准教授 神武 直彦

最近のニュース

TOPIC

1

4月19日 研究科説明会を開催

今年度初回となるSDM研究科説明会を2014年4月19日(土)に日吉キャンパス協生館にて実施した。参加者は従来の説明会と比較して85名と多く、説明会場はほぼ満席となった。まず、冒頭に前野研究科委員長よりSDM研究科のビジョンや教育カリキュラム、研究についての紹介、新任の谷口智彦教授、五百木誠准教授をはじめとする各教員より各担当の講義、研究についての紹介がなされた。そして、その後、実際の講義や協生館内の実験室の見学会を経て、教員、学生による各ラボやセンターに関するポスターセッションが行われ、参加者との活発な議論がなされた。また、その後、当麻哲哉准教授によるプロジェクトマネジメントに関する模擬授業が行われ、多くの参加者が受講した。次回の研究科説明会は、5月21日18:30から三田キャンパスで実施予定である。



合宿で行われたグループワークの様子

新年度を迎えて今年度も、幅広い分野から様々なバックグラウンドと経験を持ち、社会を変えていきたいという熱い思いを抱いた多くの学生が慶應SDMに入学してきた。2014年4月4日(金)の入学式およびガイダンスを終えて授業も開始された翌週の週末、4月11日から13日までを使って、千葉県長生郡長柄町にある「生命の森リゾート」にて入学合宿が開催された。

今年度は、「システム」・「デザイン」・「マネジメント」の3つの視点からそれぞれ異なるテーマのグループワークを実施し、慶應SDMの教育・研究につき理解を深めるとともに、学生同士がお互いを知り、思いを共有する場となるように、合宿のカリキュラムが工夫された。また、恒例の福澤学講義や、社会で活躍する慶應SDM修了生との交流の場などもあり、充実した内容となった。



TOPIC 3 3月17日 ビッグデータ・イノベーションシンポジウムを開催



SDM研究科が理工学研究科および経営管理研究科と連携して推進している文部科学省事業「スキルと実践を重視したビッグデータ・イノベーション人材育成プログラム」(代表:山

口高平理工学部管理工学科教授) に関する平成25年度の成果と次年度以降の活動計画を共有することを主な目的とした「慶應義塾大学ビッグデータ・イノベーションシンポジウム2014」を3月17日に日吉キャンパス来往舎にて開催し、100名以上の参加者によって活発な議論がなされた。当日は、青山藤詞郎理工学部長からの挨拶、文部科学省花岡宏亮参事官による文部科学省におけるビッグデータ利活用のための研究開発と人材育成に関する取組みの紹介を経て、丸山宏統計数理研究所副所長よりデータサイエンティスト育成ネットワークの形成、平手勇宇楽天技術研究所リードサイエンティストよりE-Commerce企業におけるビッグデータの活用事例の紹介がなされた。その上で、各研究科の担当教員より発

表が行われ、SDM研究科からは担当教員の一人である神武直彦准教授が報告を行った。なお、この事業は、各分野における質的・量的に膨大な情報(ビッグデータ)を利活用する学問分野ごとの様々な人材育成ネットワークをつなぐことによって、イノベーション人材育成拠点(Network of Networks)を大学等研究機関に形成し、それぞれの機関が有する人材育成資源(人材、データ等)を持ち寄ることによって、効果的・効率的・戦略的にビッグデータ利活用人材を育成するもので、平成27年度までの3年間実施される。

慶應義塾大学ビッグデータ・イノベーションシンポジウム2014:

▶ <http://bd.comp.ae.keio.ac.jp/2014/03/17/00/>



協生館6階にあふれかえる学生たち(会議室での親睦会と廊下でのポスターセッション)

4月の恒例行事となっている新入生と在校生の交流会が2014年4月19日(土)に開催され、協生館6階教員室の廊下や会議室を埋め尽くしたくさんの学生たちと教員が一堂に会した。交流会では、軽食をつまみながら全体の親睦を深めるとともに、希望する研究室を見つける良い機会となるポスターセッションが行われた。

今年度は、合宿における「マネジメント」セッションの成果報告を兼ねて、新一年生の各グループから、慶應SDMの価値を高めるプロジェクトのプランを、スキットを通して発表するイベントも行われ、終始賑わいを見せた交流会となった。



書籍紹介

『システム×デザイン思考で世界を変えるー慶應SDM「イノベーションの作り方」』

本書は2014年3月に日経BPより出版された。編著者は前野委員長。著者は、保井特任教授、白坂准教授、石橋特任助教、富田非常勤講師、八木田非常勤講師、岩田研究員である。慶應SDMの修士課程必修プロジェクト科目「デザインプロジェクト」や、一般向け公開講座KiDS（慶應イノベティブデザインスクール）、企業・事業体の研修・共同研究等で行ってきた方法論や手法をまとめたもの。

Part 1は、イノベーションとは何か。システム×デザイン思考の基本や、慶應SDMの理念・方針についてのべている。Part 2は、システム×デザイン思考の技法と活用事例。16の

技法の概要、使い方、使用例を示すとともに、事例も豊富に示している。Part 3は「武器」としてのシステム×デザイン思考活用術。特に、ビジネスパーソンを対象に、本手法を使うためのコツや心構えをわかりやすく示した。また、巻末には33のQ&Aを掲載。これまでに寄せられた主な質問に答えている。

売り上げは好評で、既に第3刷を重ねている。イノベーション教育の重要性が各界から求められている現状を反映しているものと考えられる。本書をバネに、イノベーション教育における日本随一の拠点としての歩みをさらに加速してゆく所存である。



ラボ・センター紹介

農都共生ラボ

(AGRI (Agricultural) Laboratory)

担当教員: 前野 隆司 教授、林 美香子 特任教授

http://lab.sdm.keio.ac.jp/nouto_lab/

「農都共生ラボ」は、横断研究型ラボの一つとして、2008年の開学と同時にスタートしました。農都共生は、「農村と都市と共生」の略語で、地域再生、地域活性化のための概念です。「農都共生ラボ」は、農都共生による地域再生に関する研究・普及・啓発活動の実施を目指し、農林中央金庫の寄付講座として活動しています。前野隆司教授、林美香子特任教授ほかの教員が参加しています。主な活動を紹介しましょう。

(1) 農都共生による地域再生に関する研究

林特任教授が、札幌在住でキャスターとして活動をしているため、月に1～2度、ゼミを開催。ゼミ参加者は、多様で、修士・博士課程の学生のほか、SDM研究所研究員も多く、活発な研究が行われています。

耕作放棄地、植物工場、アグリビジネスなどのテーマを、SDMの手法を駆使して、局所解ではなく、全体最適解を求める研究を行っています。

(2) 農都共生推進のための普及・啓発に関する活動

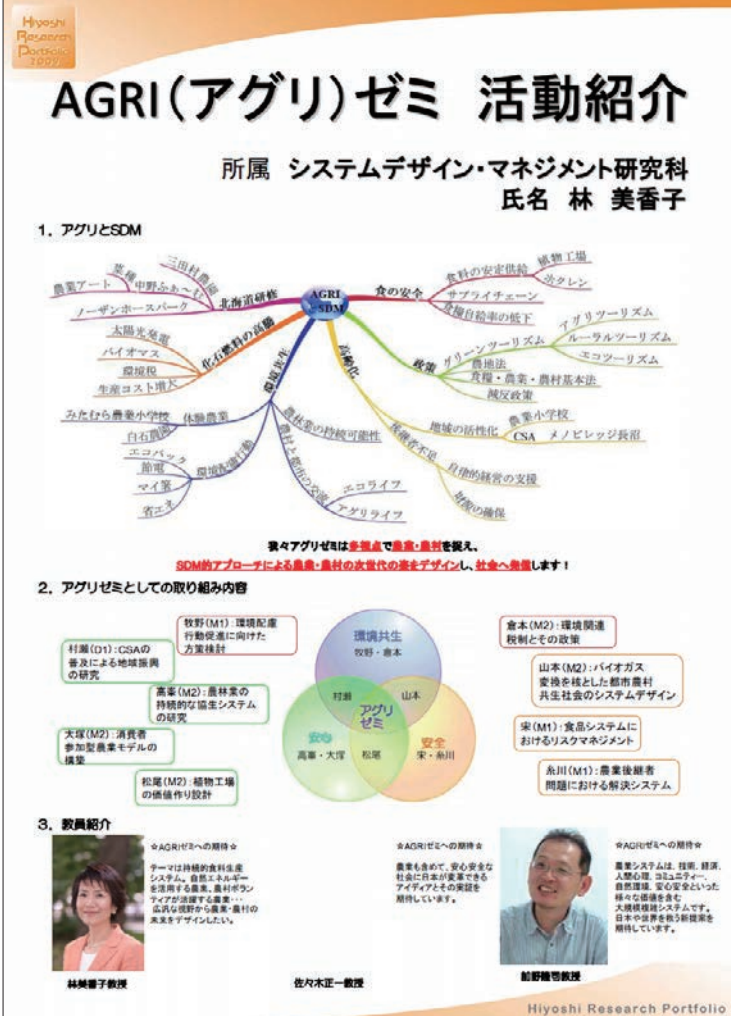
毎年、フォーラムを開催していますが、今年3月には、東京で、農業・農村・地域活性化セミナーを実施しました。また林特任教授が「農都共生のヒント」(寿郎社刊)、「農業・農村で幸せになろうよ」(安曇出版)などを出版している他、毎年、「農都共生ラボ」の報告書を発行しています。

(3) 農業・農村での調査研究

毎年夏には、農業・農村視察をしています。昨年は、帯広市役所の招きにより、十勝の農場や農業関連施設、地域づくりを視察し、調査を行いました。最終日には、「十勝の魅力を発掘する」をテーマに、市役所や地元住民の参加も得て、SDM手法によるワークショップと発表会を開催。帯広市役所や地元企業から、「今後の参考にしたい」と、好評を頂きました。

今年は、SDM研究所ソーシャルデザインセンター小布施分室とともに、長野県小布施町で調査を行う予定です。

「農都共生」や「地域活性」に興味のあるみなさん、ぜひ、SDMの農都共生ラボの活動にご参加ください。



AGRI (アグリ)ゼミ 活動紹介

所属 システムデザイン・マネジメント研究科
氏名 林 美香子

1. アグリとSDM

2. アグリゼミとしての取り組み内容

3. 教員紹介

林美香子教授
佐々木正一教授
前野隆司教授

Hiyoshi Research Portfolio
「知」をめぐり社会と交流、協働キャンパス



慶應義塾大学大学院システムデザイン・マネジメント研究科附属 SDM 研究所

〒223-8526 神奈川県横浜市港北区日吉 4-1-1 慶應義塾大学 協生館
Tel: 045-564-2518 Fax: 045-562-3502 E-mail: sdm@info.keio.ac.jp

SDM
System Design and Management